

令和7年度結城市商業観光振興計画推進委員会議事要旨

日 時 令和7年12月22日(月)17:00～18:30

場 所 市役所1階 多目的ホール

出席者 小笠原委員、飯島委員、柴委員、西村委員、野村委員、稲葉委員、野口委員、
飯貝委員、小林委員、飯野委員、大橋委員、
事務局 田村課長、鈴木補佐、館野主任、梅山主事

会議要旨

1 開 会

2 商工観光課長あいさつ

(あいさつ要旨)

本委員会は、2024 年度に策定された第 2 次商業観光振興計画について、計画が予定どおり実行されているか、期待通りの成果を上げているかの評価を行う場としての役割が期待されているところである。これからできることを見据えて未来志向のビジョンを持ちつつ、前向きな議論をいただければ幸いである。観光業や、商工業の振興には事業者の皆様やまちづくりに携わる皆様がいかに自分事としてとらえ、行動していくかが重要である。市としても皆さまのニーズにこたえるべく、「稼げる観光」の実現に向け、種々の事業を実施していく。本委員会は、まちのキーパーソンや市を代表する観光事業者など、多士済々とした皆様にお集まりいただいたと認識している。忌憚のないご意見をお話しいただき、本市の商工業、観光業がますます活性化していくことを期待したい。

3 委員、事務局紹介

各自自己紹介を行った。

4 委員長、副委員長の選任

委員長に小笠原委員、副委員長に飯島委員を選出した。

委員長あいさつ

(あいさつ要旨)

第 1 次計画が策定されてからコロナ禍という一頓挫があったものの、年数が経過したこともあるので、提言に対する結果や、改善すべき指標の上昇が期待されているところである。委員の皆様の建設的なご意見に期待したい。

また、地域の皆様の声を勉強させていただくため、ゼミナールの学生を3人聴講させていただきたい。どうぞよろしくお願いします。

5 議事

○本推進委員会の目的と役割

第 2 次計画が策定されたこと、2 年ごとの委員が改選されたことに伴い、本委員会における目的と役割について説明を行った。

議事(1)検証方法・評価指標の設定について

○第 2 次計画が策定された初年度ということで、検証方法の設定、評価指標の設定を行った。

→原案どおり承認される。

議事(2)評価の実施について

○4 つの基本目標について、KPIの達成状況、対象となる実施事業の説明を行い、事務局評価を報告した。

→原案どおりの評価で決定される。

議事(3)今後実施される事業について

○評価の参考とするため、本日以降に実施される予定の事業について報告する。

議事(4)意見交換

○議事全般、各団体の取り組みを踏まえて自由に意見交換を行った。

大橋委員：評価に関しては、伸びしろがあるということで理解してまいりたい。その中でもやはり積極的な情報発信に関しては必要と感じる。目標にあげたInstagram登録者数：5,000 人はクリアしていただきたい。市からの発信は公平性の観点もあり難しい場面もあるだろうから、個々の店舗の頑張りも必要であると感じる。パンフレット等案内に関するもののデジタル化については、紙の方がいいという意見が現状多いことは承知をしているが、時流を考慮していくと、デジタル化を進めていくべきだろう。担当課の頑張り期待したい。

小笠原委員長：観光誘客がなされた結果の果実として、経済効果が求められる。やはり事業者には結果にコミットする「阿漕さ」がもっとあってもいい。デジタル化必須の流れには逆らえないと感じており、自治体単位でのアプリの開発、運用なども視野に入れるべきであろう。

飯島委員：観光誘客に関しては北部市街地を中心に考えていくべきであるが、人口減少に伴う空洞化が心配である。最近秩父の商店街を視察したが、空き店舗は少なかった。本市との違いは何なのか。観光誘客のポテンシャルを挙げていく必要があるだろう。

飯野委員：北部市街地においては、出店より閉店事業者の方が上回っている状態である。新規出店した店舗の中には数年で閉業している店舗もある。本市に何を求めて観光客は来ているのか、マーケティングをしっかりと行い、分析していく必要があるだろう。

小笠原委員長：地元信金や商工会議所において、意見やノウハウを集約し、出店前後のフォローアップをしていく必要があるだろう。

飯貝委員：北口の出店情報を、商工会議所と意見交換している。地元の飲食店情報を信金のHPで掲載を始めたり、駐車場に観光情報を加えた看板を設置するなどしている。最近出店した店舗では、メンズエステの店が好調であると聞いている。

小笠原委員長：近い将来においては、人口減少は避けて通れない事実である。そのことを考えると、副業などを行い、減少する市場に起因する減収を補填しながら、地域経済の持続を模索していくことも必要であるとする。

野口委員：きものday結城の時に試験的に運行されたEVバス(充電車で走るバス)は、有望であると感じた。モビリティ(移動)は観光面に限らず、移動手段の重要性を認識できた。

西村委員：観光の振興には、まち全体のおもてなし感の醸成が必要であることを強く感じている。四国のお遍路さんに対する「お接待」文化などが代表的なものであろう。また、誘客や賑わいの核となる場所として図書館を中心とした取り組みができないかと思う。岐阜市の一例がテレビで紹介されていたが、これに倣い本市の駅前周辺の賑わいに取り組んでいただきたい。

小笠原委員長：結城市の情報センター、図書館の可能性は高いと感じる。十分戦えるクオリティがあるので、戦略として組み込んではいかがか。

小林委員：外国人を対象に日本語を教える会で活動をしている。今や働きとしてなくてはならないということは、経済活動の重要な担い手になっているということ。挨拶をすればきちんと返してくれるので、ともに参画していけるような仕組みづくりが必要であろう。

稲葉委員：結城紬の着付け体験の代表をしている。毎日でも実施したいが、収支の関係で難しい。EVバスについてはすぐにでも実用化が望ましい。日光の二社一寺めぐりでも乗ったが、よかった。本市では観光だけでは限界があるので、高齢者の移動手段とあわせて活用できるとよい。また、きものday結城時に実施した「お寺deランチ」について可能性を感じる。このような特別な場所での3,000円のランチは妥当であるし、お金落としてくれるだろう。どんどん拡大していくべきではないだろうか。

小笠原委員長：EVバスについては、カーボンニュートラルや人口減少時代と相まって、これからの時代に必要な施策となってくるだろう。日光の話をいただいたが、例えばいろは坂にケーブルカーの敷設など、発想の転換を伴うゲームチェンジャー的な大胆な施策も必要であろう。

「お寺deランチ」の話は興味深く、お金の落としどころの発見という意味では、稼げる観光の実現に向けて継続していただきたい。

野村委員：きものday結城についていろいろな意見が出された。結城紬生産者の代表としてもありがたい。いろいろな仕掛けを工夫しながら取り組まれていると感じる。しかしながら客の固定化が進んでいるように感じる。さらなる特色、独自性を出すべく、「きものジャック」などと銘打ち、結城のまちを着物一色で染めるなどのイベントの実施を期待する。

小笠原委員長：きものday結城が高齢者のイベントになっているのではという学生からの意見があった。今後はこのイベントを稼げるイベントへ特化させていく必要もあるだろう。特に地元の事業者がイベントを実施する価値を見出せるようにしなければならないだろう。

小笠原委員長：その他、追加でご意見等ありましたらご発言いただきたい。

（委員からの質問、意見等無し）

ではこれにて本日予定した議題が終了いたしました。本委員会の議事を終了します。

— 議 事 終 了 —

4 その他

○連絡事項

5 閉会